

【難聴うさぎ×アクトナビ】

「本気で願えば夢は叶う」を証明したい。 当事者を取り巻く環境とアクトナビの可能性

1. はじめに

SNS 総フォロワー数 約 80 万人。明るい笑顔とキレのあるダンス、そして「難聴」に関する発信で若者を中心に絶大な支持を集めるインフルエンサー・難聴うさぎさん。
今回は、彼女が発信を続ける原動力や活動に込めた想い、そして「情報アクセシビリティ支援ナビ(アクトナビ)」を使ってみた感想について、本音で語っていただきました。



インフルエンサー・難聴うさぎさん。島根県松江市出身。

明るいキャラクターで難聴をテーマに発信し、当事者や若者に絶大な支持を集めている。

2. 「障害を持っていても夢を叶えられる」と証明したかった。

「聞こえないわたしが、コラボを通して、だれかの声を聞く」意味。

——難聴うさぎさんは、「本気で願えば叶う」「障害をポジティブに捉えたら人生は楽しくなる」というメッセージを強く発信されています。そもそも、自分が楽しむだけでなく、周りに影響を与えたいと思うようになったきっかけは何だったのでしょうか？

難聴うさぎ：

きっかけは小学生のときでした。

小学4年生の頃、テレビの字幕放送を使って番組を楽しめるようになりました。でも、ふと不思議に思ったんです。「どうしてテレビの中では、耳が聞こえない人が活躍していないんだろう？」って。

当時、テレビで活躍している聴覚障害の方は多くありませんでした。だからこそ、「耳が聞こえない人でも芸能人になれる、夢を叶えられる社会を作りたい」と思い、小学6年生のときには「いつか絶対に東京に行く」と決めていました。

——有言実行で上京されたわけですね。

難聴うさぎ：

はい。20歳を過ぎて一人で上京しました。でも現実には甘くなくて……たくさんのオーディションを受けましたが、「補聴器をつけているから」という理由だけで落とされ続けました。

「何のために東京に来たんだろう」と悩んでいた時期に、何気なく始めたのがTikTokでした。

そこで勇気を出して、ハッシュタグに「#難聴」「#聴覚障害」とつけて動画をアップしてみたんです。そうしたら、「勇気をもらった」「耳が聞こえないのに音楽に合わせて踊っていてすごい！」といったコメントをたくさんいただいて。その時初めて、「あ、耳が聞こえないことを隠さずに公表して発信することに意義があるんだ」と気づかされました。

——そこから今のコラボスタイルにつながっていくのですね。

難聴うさぎ：

そうですね。もともとYouTubeを始める前から、「車椅子になった人はどうやって人生を楽しんでいるんだろう？」とか、自分とは違う障害を持つ方がどう過ごしているのか興味があっ

て、よく話を聞きに行っていたんです。

でも、私だけが聞いて終わりじゃもったいない。世の中に発信すれば、私と一緒にみんなも学べるし、同じような悩みを抱えている人たちに勇気を与えられるかもしれない。そう思って発信を続けています。

耳が聞こえない私が、誰かとコラボして相手の話を聞く。「聞こえないからこそ、“誰かの声を聞く”」という形で、社会のいろんな価値観を届けられると思っています。



インタビューーの話に真剣に耳を傾ける難聴うさぎさん。

「聞こえないからこそ、“誰かの話を聞く”」と、自身のコラボスタイルについて語る。

3. 自分にはないものを笑いに変える。「聞こえなくてよかった」こと。

——コラボ動画などを拝見していると、いつもすごく明るいのが印象的です。何か心がけていることはありますか？

難聴うさぎ：

障害というものを重く暗いものではなく、もっと「気軽なもの」として捉えてもらいたいんです。だからあえて、「耳が聞こえなくてよかったこと」を話すようにしています。

例えば、マネージャーと喧嘩したとき。補聴器を外してしまえば情報はシャットアウトできるので、嫌な言葉は聞こえません。あとは寝る時ですね。私は寝相も悪くて結構うるさいらしいんですけど、補聴器を外せば自分の音も周りの音も聞こえないので、どんなにうるさくてもぐっすり眠れます。

そうやって自分にはないものをネタにして笑えるような形にすることで、コラボ相手や視聴者の方が、障害を「特別なもの」として重く捉えてしまわないような工夫をしています。

4. チェックボックスで選ぶだけで、最新の製品情報をキャッチできる。 「アクトナビ」のおすすめポイントと活用方法。

——今回、「アクトナビ」を実際に使ってみていかがでしたか？

難聴うさぎ:率直に「すごく便利だな」と感じました。まず、操作がすごく簡単です。チェックボックスにチェックを入れるだけで、自分が求めている製品や情報をすぐに探すことができます。

こういった支援サイトって、情報が古いままで止まっていることが多いんです。アクトナビには私が普段実際に使っている最新のツールや、知っているメーカーの製品がたくさん掲載されていました。例えば、文字起こしを行うアプリは会議や電話などで大活躍しています。普段の生活に欠かせない製品の一つですね。アクトナビには「ちゃんと使える情報」が載っていて、信頼できるサイトだと感じました。

——どんな人にこのサイトをおすすめしたいですか？

難聴うさぎ:

障害を持っている方や高齢者の方はもちろんですが、「ちょっと困っている」という、診断まではいかないけれど生活に不便を感じている人にも使ってほしいです。

「障害」という言葉が入っていると、「自分には関係ない」と思ってしまう人もいます。ただ、ちょっと聞こえにくいだけとか、少し見えにくいだけという方もいます。このサイトは、誰でも困りごとに合わせて製品を探せるようになっているので、使うハードルが低くてすごくいいなと思いました。

あと、実は最近、大学生の方から「卒論のためにインタビューさせてほしい」という DM をよくいただくんです。アクトナビには専門的な調査レポートもしっかり載っているので、困っている当事者の方はもちろんですが、そういった学生さんや研究者の方にとっても役立つサイトだなと感じました。

5. 技術を作ってくれる人たちへ

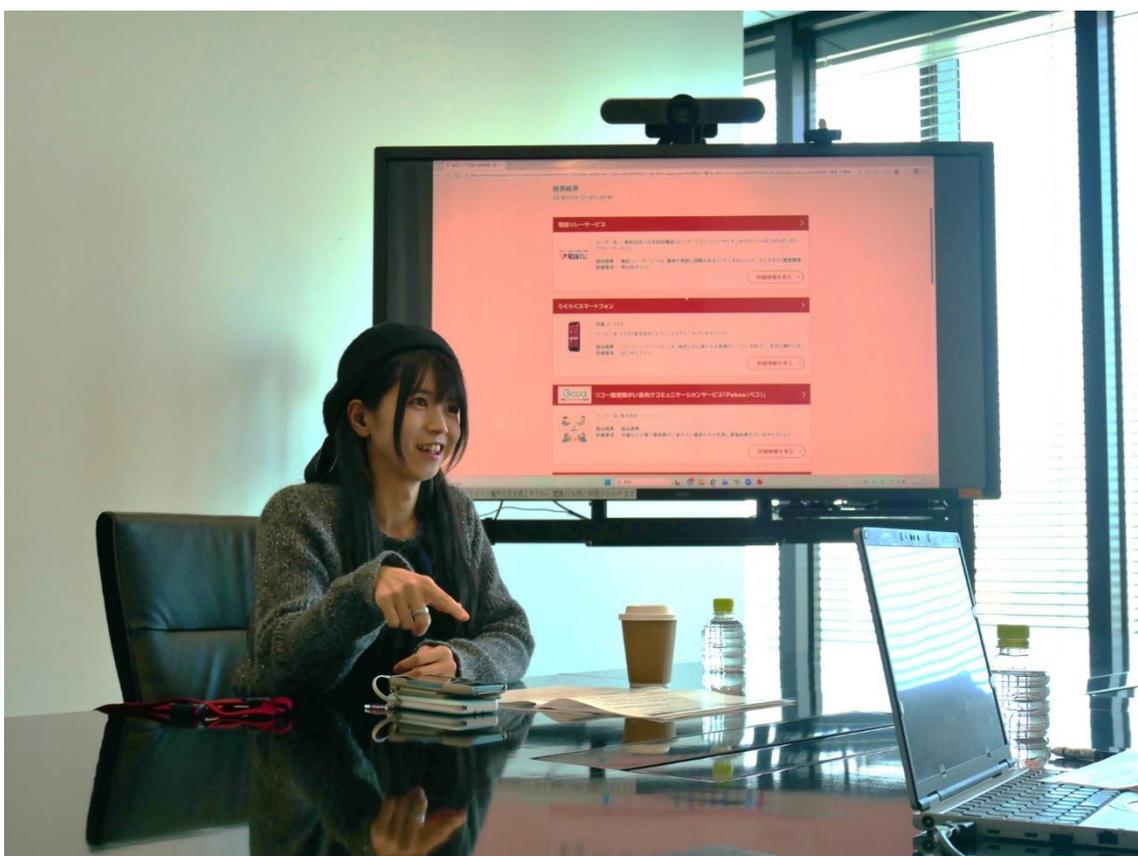
——支援製品を開発している方へメッセージをお願いします。

難聴うさぎ：

製品を作ってくださっている皆様には、本当に頭が上がりにません。この補聴器を開発してくれた方がいなければ、私は一生誰かの声をしっかりと聞くことはできませんでした。

私のところにも「子どもが難聴だとわかったが、どうすればいいか」といった相談がたくさん届きます。メーカーの方が当事者の本当のニーズを集めるのは大変だと思いますが、ぜひこのアクトナビにあるような当事者の声を活用していただきたいです。

私たちのことを考えて、製品を作ってくれていること自体が本当にありがたい。これからも、より良い製品を作り続けていただけたら嬉しいです。



アクトナビの使いやすさを実感する様子。障害を持つ方だけでなく、生活に少し不便を感じている人や研究活動を行う学生、製品開発者など、幅広い層に活用してほしいと語る。

6. 「聞こえない」の常識を、社会の「ふつう」に。

——最後に、社会に対して「こうなったらいいな」と期待することはありますか？

難聴うさぎ:

情報アクセシビリティの技術が進んで、私たちもずいぶん生きやすくなりました。ただ、対人コミュニケーションの部分では、まだ「どう配慮していいかわからない」という戸惑いを感じることがあります。

例えば、私の場合は耳元で話されると逆に聞き取りづらいです。音が歪んでしまって、まるで知らない外国語を話されているような感覚になります。「音」は聞こえているけれど「言葉」として入ってこない。だから、口の動きを見ることがすごく重要なんです。

以前、お店でマスクをしているスタッフの方をお願いしても、外してもらえずにそのまま話されてしまって困ったことがありました。

——そういった場面で、どうすればお互いに歩み寄れると思いますか？

難聴うさぎ:

「聞こえない人の常識」が「一般の人の常識」の中に自然に入ってくれたら嬉しいですね。

例えば、海外の方と話すとき、言葉が通じなければジェスチャーを使ったり、翻訳アプリを使ったりしますよね？ それと同じ感覚で、耳が聞こえない人には「マスクを外して口元を見せる」「スマホの文字起こし機能を使う」といった選択肢が、社会の「ふつう」になっていけばいいなと思います。

自分とは違う人がいるという前提を持って、ほんの少し相手の特徴に目を向ける。そして「自分に何ができるかな？」と少し考える気持ちがあれば、そういう小さな理解が広がっていけば、もっと優しい社会になると信じています。



インタビュー中も終始、明るい笑顔を絶やさなかった難聴うさぎさん。
「本気で願えば夢は叶う」「障害を前向きに捉えることで人生は楽しくなる」という
彼女の強いメッセージを、まさに全身で体現してくれた。